

(4) 第一百十六師團高家場(石首西北一ニ料)附近
(5) 第六十八師團華容附近

但シ本二日夕迄ニ華容西南九都大河ノ線ニ進出ス

二敵ハ我カ軍ノ進攻ヲ危惧シ一部後方機關ヲ後退セシメアル

モノ如キモ進攻ノ時期及方面ニ關シテハ尙察知シアラザルモノ

如シ

敵ノ配備ニ關シテハ大ナル變化ヲ認メズ

三軍ハ本二日十七時一十七時三十分ヨリ攻撃ヲ開始シ先ツ

王家廠(澧縣西北方四。料)及(家)郷方面ノ敵ヲ捕捉殲滅ス(終)

安

電報

昭和一八一一一四

一一四〇〇一五發
一一四〇〇六〇〇受
一三〇〇〇點

呂 部隊參謀長

通電先 次長 支那總軍

呂戰參電第三ニ號

一軍八十一月二日 日没後豫定ノ如ク攻撃ヲ開始セリ

ニ三日夕ニ於テ各兵團ノ状況左ノ如シ

(1) 第三十九師團ハ新江口(松嶺東南一二料)附近太平運河ノ敵ヲ渡
河攻撃中ナリ

(2) 第十三師團ハ老嘴(沙市西南方四〇料)南側ニ於テ太平運河ヲ渡
河引續キ進撃中ナリ

(3) 第三師團ハ公安附近ノ敵ヲ攻撃中ナリ

(4) 第一百十六師團ハ沙口(石首西方ニ〇料)北側地區ヲ進撃中ナリ

(5) 第六十八師團ハ主力ヲ以テ南漳縣西北四料附近ヲ一部ヲ以テ南
縣東南八料附近ヲ進撃中ナリ

三 飛行第四十四戰隊ハ三日早朝ヨリ密ニ軍ト協力シツツアリ(終)

53

三

1831

親展電報

354
一一、一〇、二二五卷
一一、一〇、四二五卷

昭和一八、一一、一一

通電先 次長、支總

呂部隊參謀長

呂戰參電第九四號

軍八潰乱セル第七九軍ヲ徹底的ニ削減中ニシテ更ニ新安及石門附近以北ニ進出シ來レル第七三軍主力ヲ澧水以北ニ於テ急襲殲滅ヲ企圖ス

之カ爲軍ノ第二期作戰開始ハ數日來ノ豪雨ト相俟テ若干日延期スルニ至レリ

(終)

電報

昭和一八、一一、二六

一一、二六、一四〇五卷
一一、二六、一四一五卷

一一、二六、一五二〇 受付
一一、二六、一六五五 莫檢

通電先 次長、次官

支那派遣軍總參謀長

總參一電第五八四號

上號作戰部隊タル第三師團ノ歩兵第六聯隊ハ本二十六日一時
常德城東門ヲ占領引續キ城壁ニ沿ヒ戦果ヲ擴張中ナリ (終)

電報

一三三 一七四
一八〇 一八〇

昭和一八、二、四
一三、一八五
四、〇四一

次長宛

支那派遣軍總參謀長

總參一電第六四七號

第十一軍ハ本三日十一時常德城ヲ完全ニ攻略セリ

(終)

電報

一三八 一五三八
一六一 一五三八

昭和一八、二、九
一七〇〇
一九四〇

支那派遣軍總參謀長

通電先周
次長宛
總參二電第五二七號

南參一電第九一四號返

五

1833

一 第一〇軍主力ハ十一月中旬常德方面ニ進出シ同月下旬我が
 56 軍ニ撃破セラレ目下第六三師、第一九師ノ敗残部隊ハ常
 徳東南方及桃源西方地區ニ在リ
 尚第七五師ハ常德方面ニ現出シアラス同師ノ行動ハ最近不
 明ナリ

二 第一九師ハ十一月二十日漆家河(常德西西北方約四〇料)附
 近ニ於テ撃破セラレタリ (A情報ニ依レバ當時副師長唐伯寅
 が師ヲ指揮シアリタルモノ如シ)

三 十一月二十四日第一九師電台長ハ第一〇軍留守處長ニ對シ
 「軍長公館ハ既ニ我メシテ得タリヤ否ヤ速ニ返電アリ度ト照
 會シアリ (A情報參考迄) (終)

電報

昭和三十八、一三、一〇
 一三、九二五〇〇發
 一三、九二二一〇受
 一三、九〇四二〇點

戰果報告 (通報)

呂戰參電第六三九號

通電先 次長、支總、登、漢口 呂部隊參謀長

一軍八敵第七三軍(暫編第五師、第一五師、第七七師)

第一〇軍(第三師、第一九〇師、豫備第一〇師)

第四軍(第一六〇師、第一五〇師)

第九軍(第一九七師、暫編第五四師)

第一〇軍(第六三師、第一九師)及第五七師

(計一三箇師)ヲ完全ニ殲滅スルト共ニ

第七九軍(第九八師、第一九四師、暫編第六師)

第六六軍(第八五師、第一九九師)

第七四軍(第五一師、第五八師)

(計一七箇師)ヲ擊滅

第八軍(第一一師、第一八師、第一六二師、第一三師)

〔計〕四箇師ヲ撃破セリ

ニ常德附近ノ敵軍事根據地ハ十二月八日迄ニ之ヲ徹底的ニ覆

滅セリ

三十二月八日迄ニ判明セル主ナル戦果左ノ如シ

遺棄死體 二九、五〇三 (師長六名ヲ含ム)

俘虜 一四、〇三五

山砲 二五 速射砲 五 迫撃砲 一三一

重機 一七九 輕機 四四一 小銃 五四九〇

擲彈筒(銃) 三〇二

四 我方損害 (十二月八日調査)

戦死 一、二七四 (一、一六)

戦傷 二、九七七 (二一六)

(終)

	臣 次	長 總	名 件	名 宛	番 發 号 送
		杉 山	上 號 作 戰 指 導 件	支 那 派 遣 軍 參 謀 長 呂 集 團 參 謀 長	二 七 九
	官 次	(長 官 站 兵) 長 次			
		秦			
部 回 決 官 長 行 右	長 (高) 部 帶 連	長 部 主 官 長 任			
		真 田			印 發 日 送
課 右 決 長 回 覽 行	長 課 帶 連	課 主 任 長 任	課 長 務		昭 年 月 日 前 時 分
		服 部	二 神	者 信 發	12 月 12 日 19 時 45 分
		主 任 者	主 任 者	次 長	
		近 藤	橋 詰		

軍機親展極秘
將校取極
暗號

打通作戰ニ關スル研究ノ結果

將來本作戦ヲ實施スル場合ニ於テハ當方ニ於テモ總參一
電第六七八號ノ通り常德附近ハ之ヲ確保シオクヲ有利

ト考ヘアリ

本作戦ニ就テハ目下研究中ニシテ第三、第十三師團ノ轉
用延期ニ就テモ考慮シアルヲ以テ爲シ得ルハ差當リ常
德附近ヲ確保スル如ク鬼メラレ度 依命

通電先支總(呂ハ參考)

電報

通電先支總 參考次長

呂戰參電第六八八號

總參一電第七〇〇號ニ基ク軍ノ現況及爾後ノ作戰指導ノ

大綱左ノ如キニ付報告ス

一 現況

軍ハ呂戰參電第六三八號ヲ以テ報告セシ如ク十一日日夜後
常徳附近ヨリ反轉ヲ開始シ十二日夜主力ヲ以テ澧水河
畔ニ達ス十二日夕軍ハ反轉順調ニ進捗シアルヲ以テ更ニ松
滋河右岸ニ向テ反轉ヲ既ニ命令シ同日夜第十三師團ハ
澧水北岸地區ニ進出中ニシテ爾餘ノ師團ハ澧水南岸地

昭和 一八、一二、二三

一、二、三

一	二	三
四	五	六
七	八	九
一〇	一一	一二
一三	一四	一五
一六	一七	一八
一九	二〇	二一
二二	二三	二四
二五	二六	二七
二八	二九	三〇
三一	三二	三三
三四	三五	三六
三七	三八	三九
四〇	四一	四二
四三	四四	四五
四六	四七	四八
四九	五〇	五一
五二	五三	五四
五五	五六	五七
五八	五九	六〇
六一	六二	六三
六四	六五	六六
六七	六八	六九
七〇	七一	七二
七三	七四	七五
七六	七七	七八
七九	八〇	八一
八二	八三	八四
八五	八六	八七
八八	八九	九〇
九一	九二	九三
九四	九五	九六
九七	九八	九九
一〇〇	一〇一	一〇二
一〇三	一〇四	一〇五
一〇六	一〇七	一〇八
一〇九	一一〇	一一一
一一二	一一三	一一四
一一五	一一六	一一七
一一八	一一九	一二〇
一二一	一二二	一二三
一二四	一二五	一二六
一二七	一二八	一二九
一三〇	一三一	一三二
一三三	一三四	一三五
一三六	一三七	一三八
一三九	一四〇	一四一
一四二	一四三	一四四
一四五	一四六	一四七
一四八	一四九	一五〇
一五二	一五三	一五四
一五六	一五七	一五八
一六一	一六二	一六三
一六四	一六五	一六六
一六八	一六九	一七〇
一七二	一七三	一七四
一七六	一七七	一七八
一八〇	一八一	一八二
一八四	一八五	一八六
一八九	一九〇	一九一
一九三	一九四	一九五
一九七	一九八	一九九
二〇一	二〇二	二〇三
二〇五	二〇六	二〇七
二一〇	二一一	二一二
二一四	二一五	二一六
二一八	二一九	二二〇
二二二	二二三	二二四
二二六	二二七	二二八
二三〇	二三一	二三二
二三四	二三五	二三六
二三八	二三九	二四〇
二四二	二四三	二四四
二四六	二四七	二四八
二五〇	二五一	二五二
二五四	二五五	二五六
二五八	二五九	二六〇
二六二	二六三	二六四
二六六	二六七	二六八
二七〇	二七一	二七二
二七四	二七五	二七六
二七八	二七九	二八〇
二八二	二八三	二八四
二八六	二八七	二八八
二九〇	二九一	二九二
二九四	二九五	二九六
二九九	三〇〇	三〇一
三〇三	三〇四	三〇五
三〇七	三〇八	三〇九
三一〇	三一〇	三一〇

呂 部 隊 長

1839

區ニ於テ渡河準備中ナリ

以上ノ現況ニ於テ本十三日三時總參一電第七二〇號ヲ受領

ス

ニ作戰指導ノ大綱

軍ハ主力ヲ以テ澧水南岸地區ニ態勢ヲ整頓シタル後爾

後ノ攻勢ヲ準備ス

三右ニ基キ軍ハ取敢ズ十三日三時軍主力ヲ澧水南岸地

區ニ停止セシムル如ク發令セリ

(終)

電報

昭和十八年一月三十一日

一三〇〇〇
一三〇〇〇
一三〇〇〇
一三〇〇〇

通電先支總
考次長

呂部隊長

呂戰參電第六九一號

總參謀長へ

軍

參謀長ヨリ

軍ハ取敢ズ十三日朝第三師團第六十八師團及第百十六師團ヲ
澧水南岸地區ニ停止第十三師團ヲ王家廠附近ニ集結セシメ又一
支隊ヲ以テ安郷ヲ確保セシメタリ

然レドモ右態勢ハ原態勢ニ復歸スル為途中ヨリスル應急
處置ニシテ兵站其他諸準備既ニ其大部ヲ撤收シ爾後攻勢
ヲ再興セントスル場合ニハ之ガ準備ニ相当ノ時日ヲ要スル實情ナリ
而シテ軍ハ今次作戰ヲ總軍ノ指示ニ基キ本十二月中ニ終了スル
63 目途ニ應ズル諸準備ノ下ニ作戰ヲ開始セルヲ以テ常德附近ヲ確
保セントスル作戰目的ノ為ニハ軍全般ノ計畫及諸準備ヲシテ更ニ

慎重ニ考慮セシメラルル要アリ

軍現下ノ實情ハ以上ノ如キヲ以テ軍トシテモ一應今次ノ作戰ヲ打切り

明春更ニ常德附近ノ確保作戰ヲ復興セシメラレ度意見ナリ

尙軍ハ現下ノ取敢ズノ態勢ヲ以テ長時日ヲ經過スルコトハ適當ナラ

ガルヲ以テ何分ノ指示相成度

(終)

電報

昭和一八、一三、一四

通電先 技總

呂部隊長

呂戰參電第七〇三號

意見具申

軍ハ現在ノ態勢ヨリ引續キ攻勢作戰ヲ再興スルコトハ作戰目的ノ

變更ヲ要ス。軍ハ作戰準備及軍隊疲勞ノ實狀茲ニ警備正面

確保ノ限度等ヨリスルモ得策ニアラサルヲ以テ今次作戰ヲ速ニ打切り

65

明春更軍備ヲ整ヘタル後新作戦ヲ開始スルヲ直當ナリト信ス
 右第一線軍ノ統率上ヨリ鑑ミテ尚打通作戦ノ為帝徳附近ヲ確
 保セントスル場合ニ於テハ相當大ナル兵力ヲ之ニ膠着セラルルヲ豫期セラ
 ル又軍ハ現在ノ線ヲ其儘長ク停止スルコトハ爾後ノ作戦彈力保持上
 直當ナラズト信ス

附
 (終)

1843